

事業概要

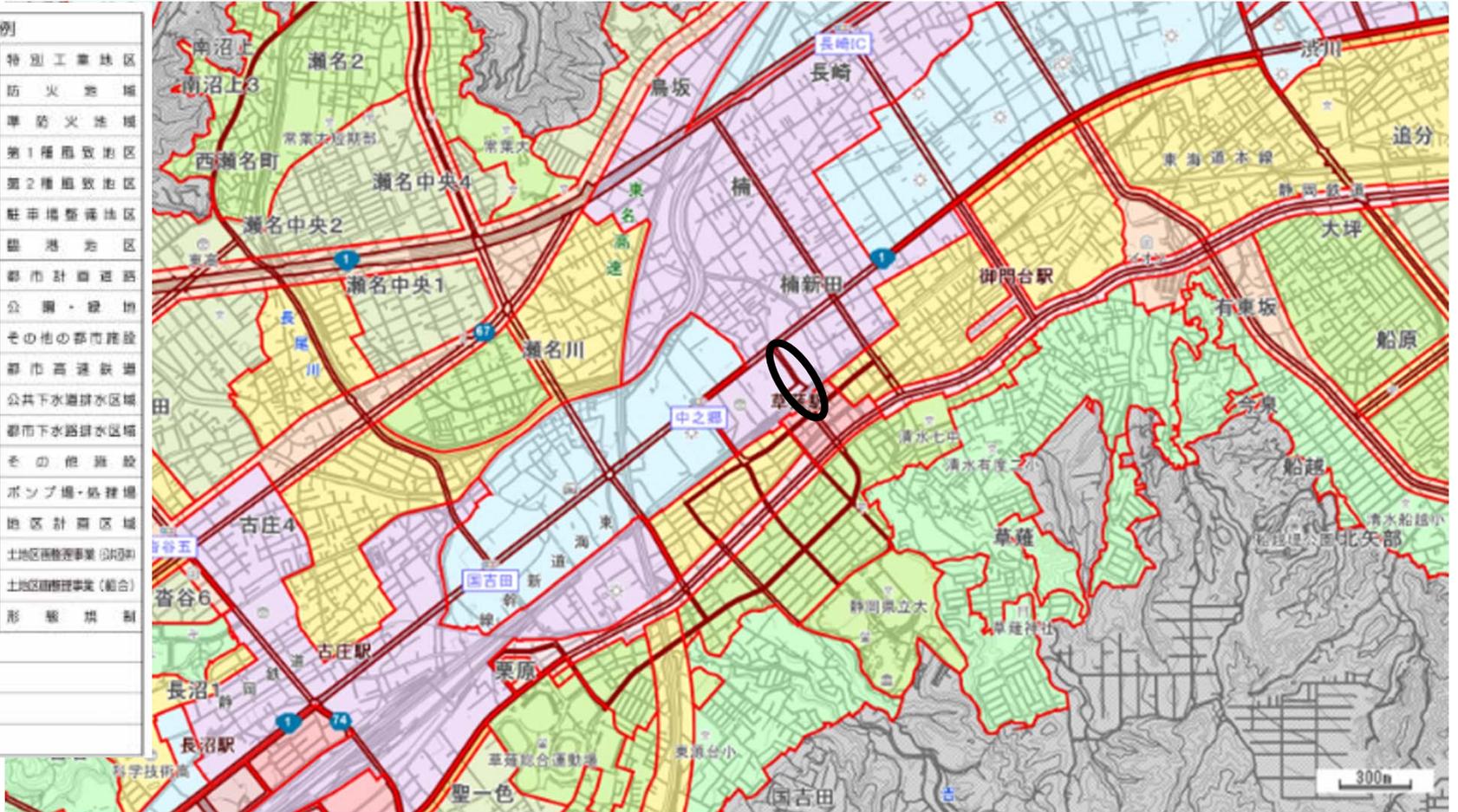
応募No.	13		
事業主体	静岡市	実施都市名	静岡市
応募者名	静岡市		
ふりがな 事業名称	としけいかくどうろ くさなぎえききたぐちどおりせん 都市計画道路 草薙駅北口通線		
事業概要 (400字以内)	<p>本路線は、JR草薙駅北口を起点とし、起点部に新設する駅前広場を含んだ国道1号に至るアクセス道路である。</p> <p>本路線が位置づけられている草薙駅周辺地区は、本市の「第三次静岡市総合計画」において「地域拠点」に位置づけられており、交通結節点機能、暮らし行政・文化機能の拠点として交流機能を高め、都心、副都心との連携を強化し都心の機能を補完するまちづくりを進めることが示されている。</p> <p>また、周辺に位置する静岡サレジオ小学校の通学路や草薙駅周辺地区バリアフリー基本構想の特定経路にも位置付けられており、歩行者の安全確保が求められている。</p> <p>このため、駅北側からの交通アクセスやバリアフリーに配慮した都市空間を形成し、地区の一体的な市街地の再生を図る。</p>		
事業規模	事業延長	190m	
	幅員	14m	
	事業期間	平成27年度～平成30年度	
	事業費	6.3億円	

事業位置図

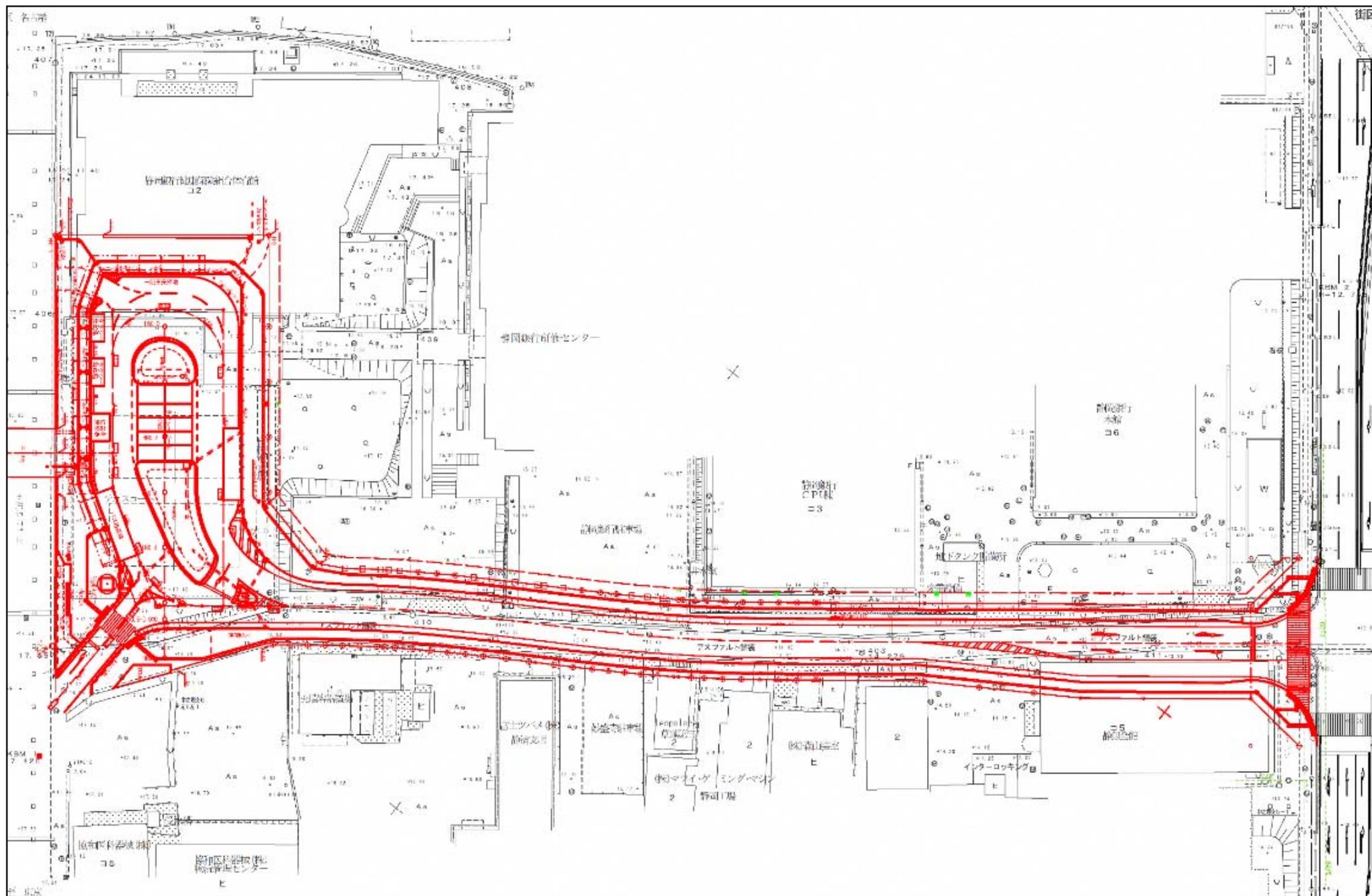


都市計画図(用途地域図)

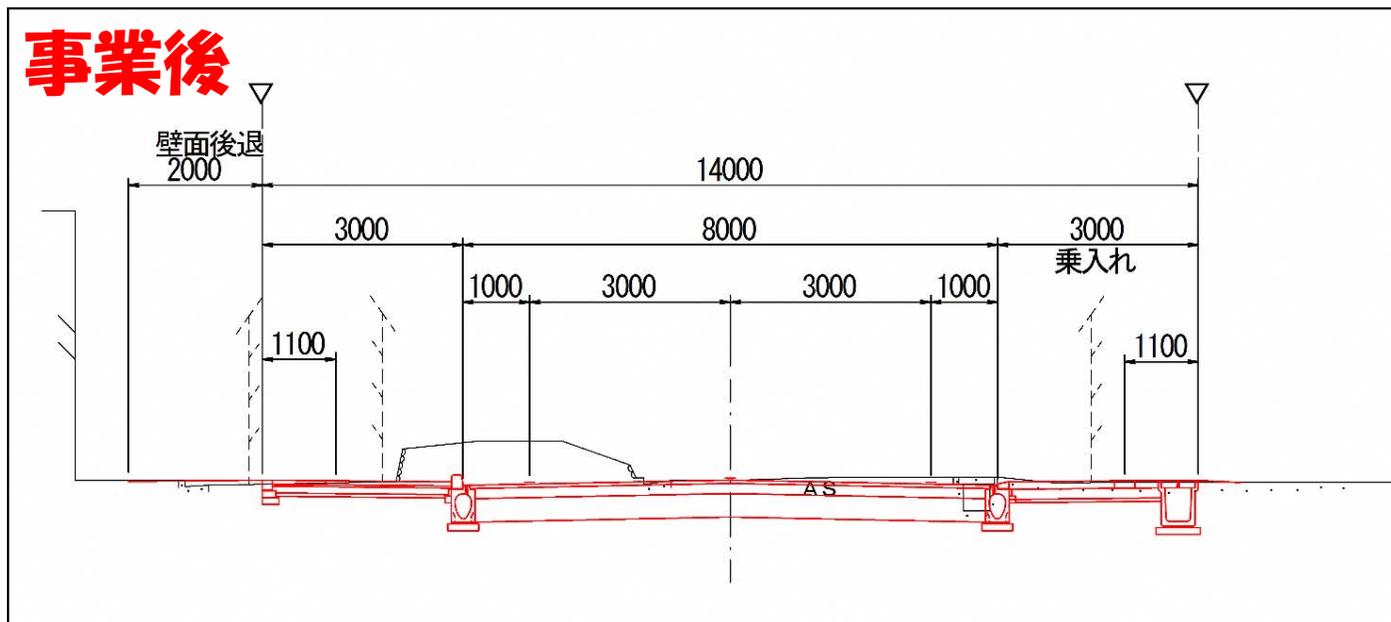
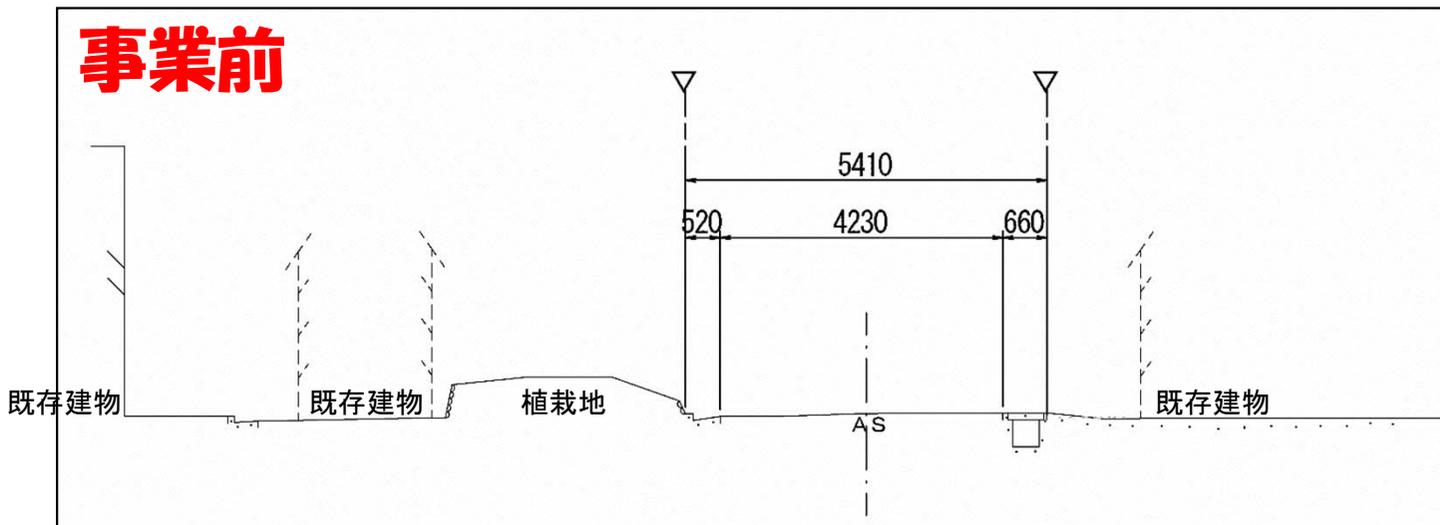
凡	例
行政区域	特別工業地区
都市計画区域	防火地域
市街化区域	準防火地域
市街化調整区域	第1種用途地区
第1種低層住居専用地域	第2種用途地区
第2種低層住居専用地域	駐車場整備地区
第1種中高層住居専用地域	臨港地区
第2種中高層住居専用地域	都市計画道路
第1種住居地域	公園・緑地
第2種住居地域	その他の都市施設
準住居地域	都市高速鉄道
近隣商業地域	公共下水道排水区域
商業地域	都市下水道排水区域
準工業地域	その他施設
工業地域	ポンプ場・処理場
工業専用地域	地区計画区域
	土地区画整理事業(分団)
	土地区画整理事業(総合)
	形態規制



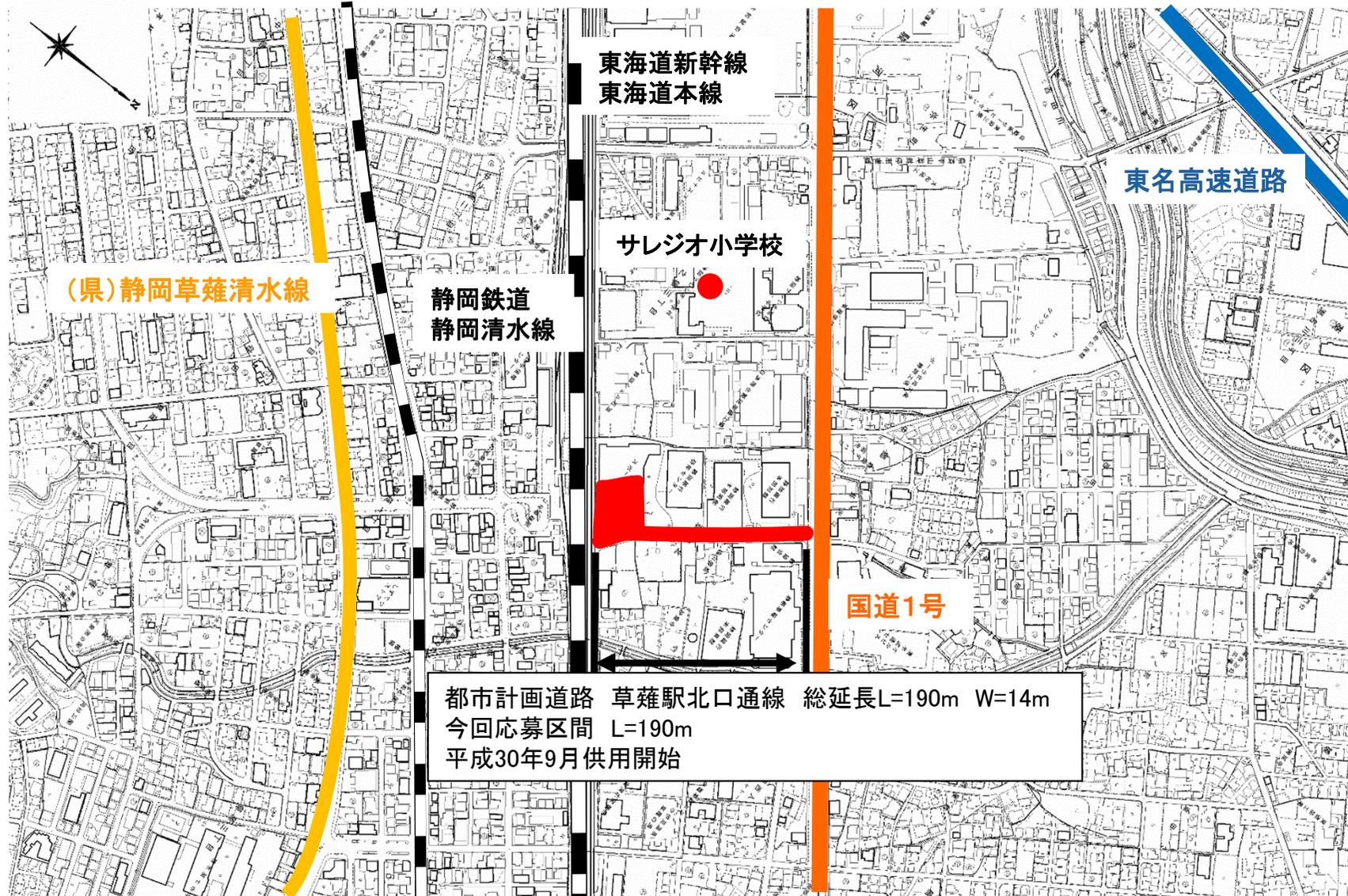
平面図



横断図



路線全体の進捗状況



事業前写真



事業後写真

(草薙駅北口通線)



事業前写真



事業後写真

(草薙駅北口通線)



事業効果アピール資料



(草薙駅北口通線)

1. 駅までの徒歩アクセス時間の短縮

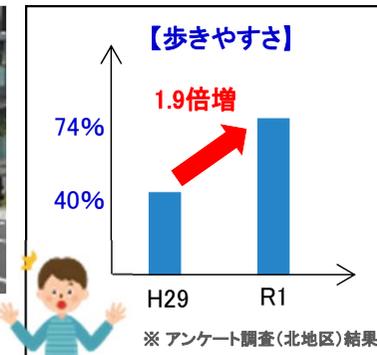
JR草薙駅は、南口からの出入りのみと限定されていたため、東海道線から北側の歩行者は、線路を跨ぐ必要があり、駅までのアクセスに時間を要していた。また、迂回路には草薙踏切があるため、危険な通行を余儀なくされていた。

北口通線の整備に合わせて駅北口を開設したため、駅までのアクセス時間の短縮とともに安全な通行を確保できた。

2. 安全・安心な歩行環境の確保

整備前は歩道がなく、自動車と歩行者が交錯していたが、歩道を設置し、無電柱化を行ったことで、安全・安心に通行のできる歩行環境の確保が可能になった。

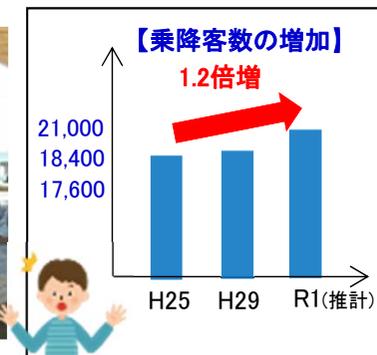
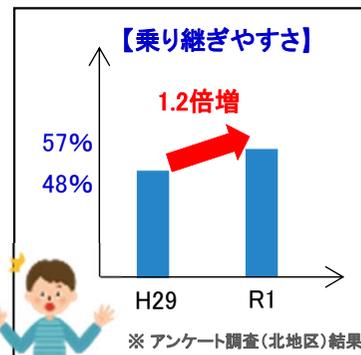
・「歩きやすさ」の増加：40% (H29) ⇒ 74% (R1)



3. 駅の公共交通（バス）機能の強化

バスの通行が可能となったことに合わせ、駅北口にバス駐車場を設置したことにより、新たにバス路線が開通し、鉄道とバスの乗り継ぎがしやすくなった。

- ・ 駅北口への乗り入れバス路線数：0本 ⇒ 2本
- ・ ピーク時間帯のバス乗り入れ本数：0本/h ⇒ 5本/h
- ・ 「乗り継ぎやすさ」の増加：48% (H29) ⇒ 57% (R1)
- ・ 乗降客数の増加：17,600人 (H25) ⇒ 21,000人 (R1推計)

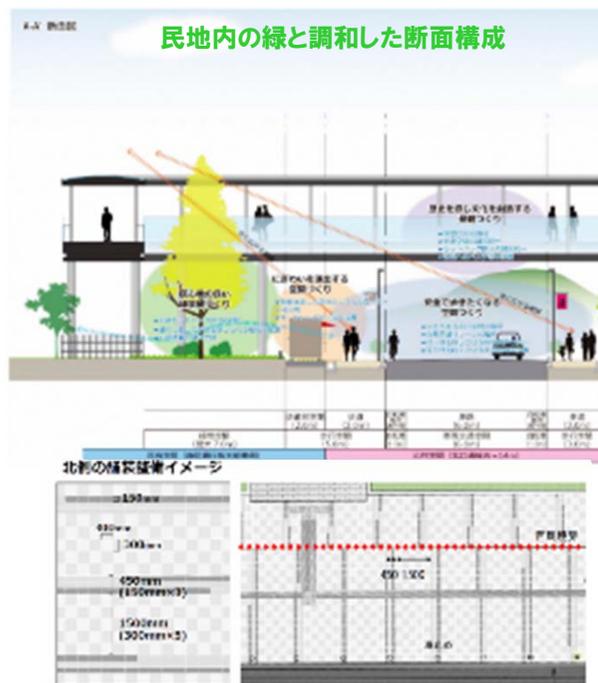


1. 沿道の景観づくり

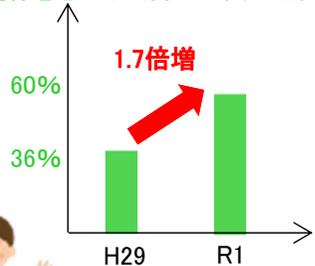
計画時から民地を含めた沿道の景観ルールを地元主体で策定し、「駅へのアクセス」に加え、「緑の軸(ネットワーク)」の実現を可能にした。

また、夜間照明においても民地と連携した社会実験を実施し、効果の検証をし、環境に配慮した沿道の景観を演出した。

- 「緑を感じる気持ちの良い空間」の増加：40%(H29) ⇒ 74%(R1)
- 「まちの愛着度」の増加：28%(H29) ⇒ 38%(R1)



【緑を感じる気持ちの良い空間】

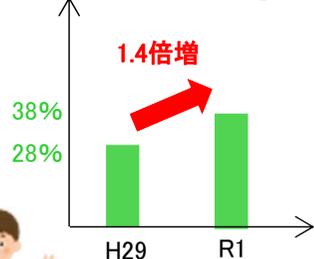


※アンケート調査(北地区)結果

民地内と連携した照明社会実験



【まちの愛着度】

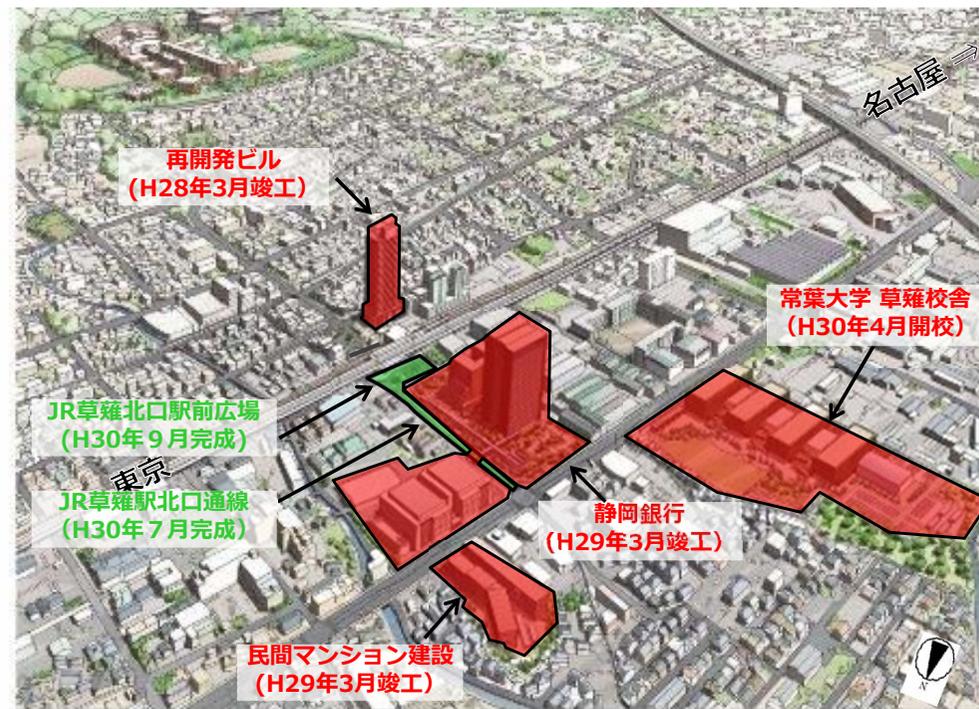


※アンケート調査(北地区)結果

2. 駅周辺の民間開発

事業着手のH27年以降に北口通線周辺の民間開発が進み、民間マンション、再開発ビルに加え、大学の誘致によって、定住人口だけでなく交流人口の大幅な増加が可能になり、若者で賑わうエリアに変わった。

- 民間施設の更新による経済効果：約360億円
- 交流人口の増加：学生数 約4,000人(常葉大学の誘致)

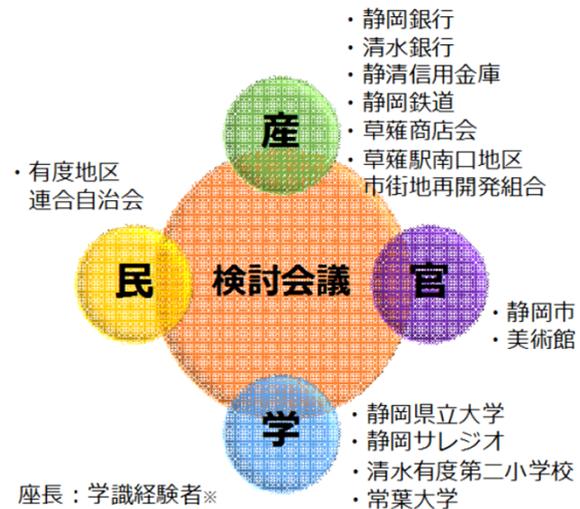


1. 地元が主体となった地域のルールづくり

事業を実施するにあたり、地元が主体となったまちづくり検討会議を設立し、地域のまちづくりのルールを定めた「まちづくりビジョン」、「景観デザインブック」を策定したことで、事業の進捗及び統一した景観整備が可能となった。

- ・草薙駅周辺まちづくりビジョンの策定 (H27年 1月)
- ・くさなぎ景観デザインブックの策定 (H28年 3月)

『草薙駅周辺まちづくり検討会議』の構成



2. 地域のまちづくりの担い手の育成

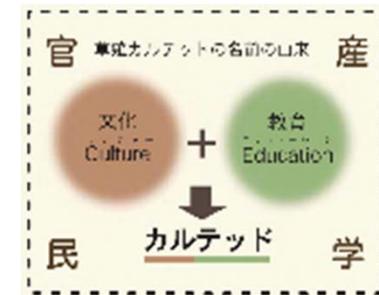
地元まちづくり検討会議で策定した「まちづくりビジョン」の実現を目指し、地域のまちづくりの担い手として、草薙カルテッドが設立、都市利便増進協定を締結し、今後の活動が期待される。

- ・草薙カルテッドの設立 (H29年 2月)
- ・都市再生推進法人の指定 (H30年 6月)
- ・都市利便増進協定の締結 (R1年 7月)

一般社団法人 草薙カルテッドの組織概要

●活動目的

「草薙駅周辺地区まちづくりビジョン」の実現を目指し、草薙カルテッドはまちづくりの担い手として、持続的・効果的にエリアをマネジメントし、住民・商業者・来街者等に価値あるサービスの提供を行う。



●会員構成

会員数 約50名

(商店会役員・周辺自治会役員・地元金融機関・学校法人・地元有志)



